

第5学年国語科学習指導案

- 1 単元名 作者の思いを探ろう
教材名 「注文の多い料理店」宮沢賢治（東京書籍 小学校5年下）

2 単元観

現在の学習指導要領の「読むこと」の領域では「文学的な文章の詳細な読解」の改善が求められてきた。しかし現在「読むこと」の力の低下も叫ばれている。この2つの問題点を解決していくために、今回は教材文の読みの視点を変え様々な読みを経験させながら、自分なりの読みを見つけていけるようにする。

(1) 児童観

本学級の児童は読み聞かせを好み、毎週火曜日にある保護者の音読タイムを楽しみにしている。毎日家庭での音読にも取り組んでおり、暗誦会では緊張しながらもお薦めの本を紹介することができた。文学級材の指導では、ことばにこだわった読み取りを中心に指導をしてきた。心情の読み取りから、単文作り等を通してことばへのこだわりをもてるようにしてきた。文章のキーワードを見付け、心情を想像することができるようになってきた。場面ごとに分けるのではなく、長い1つの場面として指導を行ってきた結果、中心場面に至るまでの心情とそれ以後の心情を比べて読むことができるようになってきたが、場面の部分を取り出すにすぎず、心情の移り変わりをとらえるまでには至っていない。説明的な文章ではキーワードをもとにそれぞれの登場人物になり書く活動（リライト）を行ってきた。本文のことばを根拠として自分の思いを入れて考えるようになったが、他者の考えを生かして表現することができない。話し合いを通して考えを深める段階にはまだ至っていない。

(2) 教材観

山深いところにある『注文の多い料理店』を舞台として、2人の若い紳士と山猫の思惑の行き違いがユーモラスに描かれている作品である。2人の紳士はごちそうを期待し、山猫は2人の紳士をごちそうとして食べられるように注文を繰り返す。最後に紳士は身勝手な言動から消えることのない印を顔に付けられてしまう。都会文明に対する反感が自己中心的な2人の紳士に対する反感という形で表現されている。作者の痛烈な思いが隠されてるが、児童は戸に書かれた注文と紳士の言動を中心に描かれている単純明快な展開と、戸の奥へ奥へと進んでいく期待感を味わいながら読み進めていくだろう。児童の読む意欲を大切にしながら作品の主題へと迫っていくために13の山猫の注文を整理すると～はなくてもいい注文、～は材料をそろえる注文、～は味付けの注文、～は必要ない注文と考えることができる。特に注文の紳士に分かってしまう注文を書いた山猫の心情を探ることによってこの主題に迫っていけると考える。児童の読みの実態、意欲を大切にしながら作者の思いへと迫っていける単元である。（本教材には色彩語、擬態語、擬声語、賢治独特のことばなど優れた文章表現があるがこの教材観では指導観に結び付けていくために書かないことにする）

(3) 指導観

読みの授業を強調する。児童の関心を継続させながら作者の思いへと結びつけていくために、単元の終末に宮沢賢治の作品をブックリストとして保護者に紹介させる。読み取りに当たっては、山猫の注文と紳士の会話・行動を読み取り、注文を書く時の山猫の思い（期待と不安）は想像しながら書き、2人の紳士の言動を表すことばと注文を書いたときのことばを根拠として注文後の思いを書き、比較させる。紳士に寄り添った読み、客観的な読み、山猫に寄り添った読みなど視点を変えた読みを楽しみながら作品の主題へと迫っていくことができる。注文は戸の表と裏が1組になっていると考えられ

るので(表の注文は当たり前の注文,裏は疑われるもしくは確認の注文),扉ごとに注文について考えさせる。注文 を切り口として山猫が本当に2人の紳士を食べようと思っていたのかを考えさせることで作者の思いに迫っていきたい。

(4) 言語活動について

ア 視点を変えて読む

- (ア) 注文のことばから,見えないもの(山猫)の心情を想像して書く。
一つのことばからイメージを膨らませることができるようになる。
- (イ) 登場人物の言動と想像して書いた文章のことばをもとにして,山猫の心情を書く。
自分の想像した文章と言動を表すことばを比べながら考えることができるようになり,文章の構成についても考えるようになる。
視点を変えて考えることにより,一方向からは見えなかった物語のおもしろさに気付くことができる。

イ 話し合い活動(グループ間協議)

- (ア) 各扉の担当グループを作り,考えた山猫の思いを発表し,その考えを確認する,広げる,深める話し合いを行う。
一つの考えをもとに話し合いを進めるので,話し合いを焦点化しやすく一つ一つのことばについての考えを深めることができる。

ウ ブックリスト

- (ア) 同作者の書いた作品を読み比べることで,共通点,相違点を整理する。
- (イ) 保護者の感想やアドバイスも入れる。
本教材と様々な物語を比べ読みすることで,作者に対する考え方を変容させたり,強固にしたりすることができる。
保護者のアドバイスをもらうことにより,児童だけでは考えることのできなかつた作品の深さに気付くことができる。

3 単元の指導目標

- (1) 紳士の言動と山猫の思いを比べながら,作品のおもしろさを読み取ることができるようにする。
- (2) 宮沢賢治の思いに迫るブックリストを作らせ,宮沢賢治の世界を愉しむことができるようにする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	ア 宮沢賢治の作品を意欲的に読み,保護者向けのブックリストを作ろうとしている。【「C読むこと」 内容(1)ア】
話す・聞く能力	イ 自分の読み取ったことを根拠を明確にして話したり,自分の考えと比べながら相手の話を聞いたりしている。 【「A話すこと・聞くこと」 内容(1)ア イ】
書く能力	ウ 教材文を手がかりに想像を膨らませたり,ことばに根拠を見付けたりしながら,自分の考えを文章に書いている。 【「B書くこと」 内容(1)ア】
読む能力	エ 宮沢賢治の作品を読み比べて,作者の思いを考えている。

オ 紳士と山猫の思いを読み取り，教材のおもしろさを感じている。
【「C読むこと」 内容（1）ウ】

5 単元計画

	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	文章を読み，初発の感想を書く。	本単元の授業に入る前に，宮沢賢治の作品をいくつか読み聞かせをしておき，本教材との共通点を見付けることができるようにする。	・ストーリー性，ことばのおもしろさに気付いている。【ワーク・発言】
2	『注文の多い料理店』という題名について考える。	『注文』ということばに着目させ，注文の意味と山猫から2人の紳士に対する注文であることを理解させる。	・『注文』が立場によって変わっていることに気づいている。【ワーク・発言】
3	13の注文の整理をする。	13の注文をばらばらに配布し，それを並び替えていくことで注文の内容の変化に気付かせる。 ・ ~ ……お店のアピールや案内 ・ ~ ……材料の準備 ・ ~ ……味付け ・ ……案内	・13の注文の質の違いを読み取ることができる。【ワーク・発言】
4	～の注文を書く	これからの学習が紳士の言動から山猫の心情を読み取ることを理解させ，学習の見通しをもたせる。	・注文を書くときの山猫の思いを想像しながら書くことができる。【ワーク・発言・話し合い】
5	前と書いた後の山猫の心情を読み取る。	注文を書く前の期待感と紳士の言動から感じた満足感を山猫の立場で書かせ，その気持ちの変化を読み取らせる。 書くときの期待感は想像して書かせ，満足感は紳士たちの言動をもとに書かせる。	・紳士の言動を読み取り，山猫の思いを書くことができる。【ワーク・発言・話し合い】
6	～の材料を整える注文を書いたときの思いと紳士の言動からの思いを読み取る。	6時目からの学習に生かすために，～の注文については各グループで分担させ，全ての注文の前後の気持ちを書かせる。 全ての注文について書くのではなく，1次で学習した材料に対する注文ととして考えさせる。	・山猫の思いと紳士の言動やりとりを楽しむことができる。【観察】
本時	これまでの注文の特徴から作者の思いを考える。	4つの注文でそれぞれ共通するものをとらえさせ，その注文の特徴に気付かせる。 ・注文 ， ……食べるために必要 ・注文 ， ……山猫にとって恐怖 ～の注文の前後の気持ちを考えさせ，紳士に気付かれた原因を考えさせる。 ・「体じゅうに，つぼの中の塩をたくさんよ	・注文の質の違いを考えながら，山猫の思いを考えることができる。【ワーク・発言・話し合い】 ・これまでの注文を振り返り，山猫が本当に食べるつもりだったのか，根

8	作品を通して作者が伝えたかったこと読み取る。	くもみこんでください。」 注文 をもとにこれまでの注文を振り返らせ、山猫に本当に食べる気持ちがあったのかを考えさせる。 注文 の後の騒がしさと山猫がいなくなった後の静けさを比べさせ、なぜ最後に2人の紳士のことが書かれているのかを考えさせる。 ・人間の愚かさ，欲 ・自然に対する思い 等	拠を明確にして考えることができる。【ワーク・発言・話し合い】 ・最後の文章を手がかりに作者の思いを自分なりに読み取ることができる。【ワーク・発言・話し合い】
9 10 11 12 13 14	宮沢賢治の他の作品を読み、本教材との共通点を見付ける。 『宮沢賢治お薦めブックリスト』を作る。	宮沢賢治の作品を読み、本教材と共通するところ，異なるところを見付け，整理させる。 その作品を通して宮沢賢治が伝えたかったことを加えてブックリストを作らせる。	・作者の思いを大切にしながらブックリストを保護者向けに作ることができる。【ブックリスト】

6 本時の指導

- (1) 目 標 注文にかくされた思いを見付けよう。
- (2) 指導目標 2人の紳士に分かってしまう注文を書いた山猫の心情から，これまで書かれた裏の注文を振り返らせ，注文のなぞを考えさせる。
- (3) 評価規準 山猫が紳士を食べるつもりだったのか，そうではなかったのか，根拠を明らかにして考えることができる。
- (4) 展 開 (7 / 14時)

過程	学習活動	指導・支援	* 評価
導 入	1 前時までの学習を振り返り，本時の活動の見通しをもつ。	これまでの学習を応用紙に整理しておき，児童がこれまでの山猫・紳士の思いをとらえることができるようにしておく。 注文 ~ までの山猫の思いを想起させ，料理の注文が味付けへと変わることを理解させる。	
展 開	2 注文 ~ までの山猫の思いを発表する。	前時の終末に書いた注文 ~ の山猫の思いを発表させ，山猫の期待感を感じさせる。 (思いを探るキーワード) ・注文 …… <u>すっかり</u> ぬってください。 ・注文 …… <u>よく</u> ぬりましたか，耳にも ・注文 …… <u>すぐ</u> に食べられます。 <u>早く</u> …… <u>よく</u> 山猫の思いを考えることができる。	

<p>3 紳士の言動に着目しながら本時の場面を読む。</p> <p>4 紳士の言動から山猫の思いを考える。</p>	<p>前の場面の思いと比べながら考えている。 山猫の思いを想像しながら考えている。 前の場面の山猫の思いを応用紙を見て確認させる。 活動4につなげるために、紳士の言動という読みの視点を与え、役割読みをする。 注文 を読んだ紳士の言動をもとに、山猫の思いをワークシートに書かせる。 やまねこの思いを見付けよう。 2人の紳士が料理されることに気付いた理由を考えさせる。</p>
<p>注文 にかくされた山猫の気持ちを見付けよう。</p>	
<p>5 注文 を書くときの山猫の思いを考える。</p> <p>終末 7 次時の学習活動を聞き、作者の考えを意識する。</p>	<p>注文 が戸の裏に書かれていることを示し、これまでの扉の裏の注文を振り返らせ、表と裏の注文の違いを考えさせる。</p> <p>(期待する反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表・・・当たり前注文 ・裏・・・念を押す、あやしまれる注文 <p>あやしまれる注文をわざわざ書いた理由を考えさせるが、ここでは、児童たちから様々な意見を出させ、次時につなげることができるようにする。</p> <p>次時の最後の3文を紹介し、助かったのに顔だけが戻らないことを児童に伝える。</p>